

斜里高校のカリキュラムを見てみよう

	必修科目										選択科目			
1 年 次	現代の国語	言語文化	公共	地理総合	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	コミュニケーション英語Ⅰ	家庭基礎	情報Ⅰ	産業社会と人間		
2 年 次	必修教科目								総探 総合的な 探究の時間	総合選択A 地理探究 化学基礎 簿記	自由選択Ⅰ 政治経済 保育基礎 情報処理	自由選択Ⅱ 地学基礎＋物理基礎 数学Ⅱ 観光ビジネス 異文化理解 服飾と手芸 コンテンツの発信と制作		
3 年 次	必修教科目				総合選択B 日本史探究 数学B ソフトウェア活用	総合選択C 応用英語 理科応用 観光応用	総合選択D 論理国語 生物 観光情報 観光英語	自由選択Ⅲ 化学 フードデザイン 生涯スポーツ						

Pick Up してインタビュー！

自分の興味のある分野で
探究力を身につける！

先生に聞いてみた！ 探究力を育てる授業を紹介

Pick Up! 理科応用

博物館と連携した実習を中心に、骨格標本づくりやサケの人工孵化実験などに取り組みます。実際に見て、触れて、考える経験を通して、理科への興味と学びを深めます。



ゴマファザランの骨格標本をつくっている様子。銅線を通して脊椎骨を固定しています。



エゾユキウサギの骨格標本をつくっている様子。薬品に漬ける前に、骨についての細かな肉を取り除いています。



理科
柴原 悠 教諭



理科
漆館 琉介 教諭

理科応用では、博物館と連携し、骨格標本づくりやサケの人工孵化実験など、教科書だけでは学べない実習に取り組んでいます。骨格標本づくりでは一人一体を担当し、水鳥や哺乳類の肉を削ぎ落とすところから骨の組み立てまでを体験。授業では先生が答えを教えるだけでなく、生徒同士で教え合いながら学びを深めています。昨年度、本授業がテレビ番組で紹介された際には、生徒が「自分たちの標本で理科応用をPRしたい」と自主的に標本を借りに来たことも。知床の豊かな自然や博物館との連携を活かした実践的な学びが、自ら考え、行動し、発信する力を育んでいます。

本物に触れながら学ぶ

Pick Up! 観光応用 / 観光情報

アプリ開発やサイクリングツアーの企画などを通して、斜里町の魅力を観光客に伝える方法を考えます。企業や地域と関わりながら、企画力や発信力、課題を解決する力を養います。



外部講師に協力してもらい、アプリ開発を実施。iPadやMacBookを活用し、絵を描く生徒やプログラミングをする生徒など役割分担し、完成に向けて活動しました。



秋頃に生徒たちが事前に考えたコースでサイクリングツアーを実施。電動自転車を活用し、約40キロのコースを参加者に楽しんでもらいました。



商業科
山田 恭兵 教諭

観光応用・観光情報では、「観光を通して地域の課題をどう解決するか」をテーマに、生徒自身が企画を考え、形にする学びに取り組んでいます。これまで、販売会で精算ミスが起きた経験からレジアプリを開発し、課題解決につなげたことも。また、町内のスポットを紹介するアプリでは、サイクリングツアーと連動させ、到着地点でアプリを操作するとオリジナルキャラクターを集められる仕組みを考案しました。先生は答えを示すのではなく、生徒の挑戦を後押しする役割。地域の方や外部講師と生徒たちが、意見を交わしながら試行錯誤を重ねることで、課題を見つけ、解決策を形にする探究力を育んでいます。

地域と関わりながら学ぶ



今年度の斜里高校のポスター

斜里高校のこれから ～探究する力を育てる学びへ～

社会や大学入試で求められる力は、知識を身につけるだけでなく、自ら課題を見つけ、考え、行動する「探究力」へと変化しています。こうした時代のなかで斜里高校ではどのような学びを目指しているのでしょうか。

趣味は写真を撮ること！
お気に入りのスポットは
以久科と来運神社です！

斜里高校は、進学にも就職にも
対応するために、普通科の学習と商業や観光、
知床に関する学びなどを自由に組み合わせることが
できる総合学科の高校です。今回は、これからの社
会で必要とされる、「自分で考え、答えのない課
題に仲間と協力して取り組む力」を育む取
り組みをご紹介します。



北海道斜里高等学校
渡邊 理実 校長

変化する大学入試、 「探究する力」が求められる時代に

近年、大学入試では学力試験だけでなく、学ぶ意欲やこれまでの活動、課題に主体的に取り組んだ経験などを評価する「総合型選抜」の募集人員が増えています。面接や志望理由書、プレゼンテーションなどを通して、自分の考えをまとめ、相手に伝える力が重視されるようになりました。

こうした変化を受け、高校での学びも「知識を身につける」ことから「主体的に学び、実践することへと広がっています。



参照：文部科学省「令和7年度入学選抜について」より作成

進路の幅を狭めるのではなく 広げるための「総合学科」という選択

総合学科は、普通教科の学習に加え、自ら考え、調べ、発表する学びを取り入れながら、将来につながる力を育てる学科です。進学希望者はもちろん、就職を目指す生徒も、それぞれに必要な力を身につけられます。幅広い分野に触れながら、自分の可能性を見つけ、将来の選択肢を広げられる学びが、総合学科の大きな特徴です。

総合学科

普通科

+

探究力を高める
選択型カリキュラム

知床学をのぞいてみよう

今年度は6グループ！その中から2グループを紹介

Pick Up! メニュー開発

私たちの目的は、斜里町民と斜里に来てくださる観光客の皆さんに向け、未利用魚の出汁を使用したメニューを広めることです。美味しく食べてもらえるメニューを日々、探究しています。



Pick Up! 知床PR

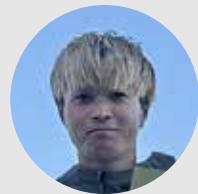
私たちは女子5人で知床のPR活動を行っています。実際に、飲食店や企業の方へインタビューし、地域の方の生の声を聴きながら知床の魅力について探究しています。また、WebサイトやInstagramの運営を通して知床の魅力を発信していきます！



Instagramもスタート！
ぜひフォローして
活動を応援しましょう！



卒業後活躍する先輩たち



2014年卒業生
外川 天寿さん

高校卒業後、国際武道大学 体育学科へ進学。卒業後、プロ陸上選手として活動。

現在はプロ陸上選手として、オホーツクから世界を目指し、斜里高校を拠点に日々練習に励んでいます。また、町内では子どもたちを対象とした陸上教室を開き、走る楽しさを伝える活動にも取り組んでいます。高校生活を振り返ると、人間力を育む3年間だったと感じています。恩師から掛けられた「人間力の向上は競技力の向上」という言葉は、今も私の支えです。この言葉を胸に、次は私が次世代のアスリートへ伝えていきたいと思っています。

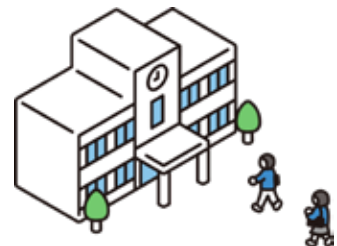


2023年卒業生
今村 柚貴さん

高校卒業後、札幌の調理専門学校に進学し調理師免許を取得。
卒業後、TOMONI COMMUNITY. LABO. (通称トコラボ) に就職。

現在は、トコラボで多様な人が参加できるイベントの企画・運営、中斜里シャトルで毎月開催している夕方食堂（地域食堂*）や町内3カ所の地域食堂の運営サポートをしています。

高校時代、野球部に所属し、同級生や後輩と大会に向けて練習した日々が一番の思い出です。仲間と協力すること、挨拶や礼儀、コミュニケーションは野球を通じて学ぶことができました。地域の方々と一緒に活動する今の仕事でも生かされています。（* 地域食堂：子どもから高齢者までが集う地域の居場所）



斜里高校の新しい情報は
学校ホームページや、
学校だよりで発信しています→



斜里高校 HP



学校だより

今年度の知床学は始まったばかり…
来年1月に開催予定の
学習成果発表会をお楽しみに！

「知床」を探究する

地域を舞台に学ぶ「知床学」



今年度のねぶたチームが取り
組んだ、ねぶた絵制作体験の様子



昨年度の地方創生チームが取り
組んだ「高校生模擬議会」の様子

そもそも「知床学」とは？

「知る」「広げる」「伝える」を目標に、地域の「魅力」と「課題」の両面を学びます。そして、生徒自ら課題を設定し、その解決方法を探り発信していく、探究型の授業です。2年次にはフィールドワークなどを通して町の現状を知り、課題について考え、3年次にはグループでテーマを設定して探究活動を行い、その内容を発信します。

2025年度の知床学は5つ！

その中からピックアップして活動をご紹介します

地域課題の解決に挑む！ 2025年度「チーム魚」の取り組み



魚をさばいて試作中



12月に行われた試食会は大盛況！

昨年度の知床学では、釣りや料理が好きな生徒たちが集まり、「食品ロス問題を解決したい」という思いからチーム魚を結成。未利用魚*を活用した出汁の開発に挑戦しました。地元企業から材料の提供やアドバイスを受けながら、試作と改良を重ね、商品のパッケージデザインまで自分たちで制作。地域の大人と意見を交わしながら、課題を見つけ、解決策を考え、形にしていける経験は、生徒たちにとって大きな学びとなりました。



高校魅力化コーディネーター
平塚さん

* 未利用魚：食用にできるにもかかわらず市場に出回ることなく、多くが廃棄される魚のこと。



こだわりは無添加。
知床の未利用魚のおいしさを伝えるためには、環境にもやさしい出汁にしようと思いがまとまりました。

※開発した出汁は、大量生産できないため、購入の際は時間がかかる場合があります。

進学した先輩に聞いてみた！



2025年卒業生
東京農業大学 生物産業学部
自然資源経営学科

知床学で特に印象に残ったのは、知床の豊かな自然と地域の方々との関わりについて肌で感じたことです。私はチーム魚として未利用魚について調べる中で、地域の資源にはまだ活かしきれないものが多いことを実感しました。企業や地域の方々をはじめ、チーム魚丸となって協力して商品化まで辿り着き、とてもやりがいを感じました。また知床学を通して、自然環境だけでなく、地域資源をどのように活用し、先に繋げていくかという視点も身につきました。今後は、地域の課題を自分ごととして考え、学んだことを地域活性化や資源の有効活用を活かしていきたいです。

知床学で見つけた
新たな視点